

津島市立北小学校いじめ防止基本方針

1 いじめ防止についての基本的な考え方について

いじめは、どの学校・どの学級でも起こりうるという基本認識に立ち、教職員が日頃から小さな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的に対応していく。すべての児童を対象に、いじめに向かわせないための未然防止・早期発見・早期対応に取り組む。そして、いじめが発生した場合には、迅速かつ確かな対応で解決に向けて力を尽くす。日頃から教育目標「心身ともに健康で確かな心と自己実現をめざす児童の育成」のもと、一貫性のある生徒指導を心がけ、自他の違いを認め合える児童の育成をめざす。

<いじめの定義>

いじめ防止対策推進法において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

2 「いじめ防止対策組織」について

(1) いじめ・不登校対策委員会

全教職員で構成し、必要に応じてスクールカウンセラー等を加える。年間2回開催するが、必要に応じて随時開催する。

(2) 職員会議や打ち合わせでの情報交換及び共通理解

全教職員で児童の現状や児童についての情報交換及び共通理解を図る。

3 いじめの防止等に関する具体的な取組について

(1) いじめの未然防止の取組について

- ・ 児童同士が友達の個性やよさを認め合い、互いに協力しあい、励まし合いながら楽しく、規律ある生活が送れるようにする。
- ・ 児童の活動や努力を認め、自己肯定感や自尊感情を育む授業づくりに努める。
- ・ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる気持ちの醸成を図る。
- ・ 異学年交流活動の中で、協力したり協調したりすることを学習させ、よりよく人と関わる力を身に付けさせる。上学年には頼られることによる成長効果（プライド効果）を、下学年には上学年を見習うことによる成長効果（あこがれ効果）の生じることを狙う。
- ・ 家庭との連携を密にし、日頃から児童の実態把握に努める。地域での児童の様子を知るために、必要に応じて地域や関係機関との連携を図る。
- ・ 携帯電話やインターネットを媒介とするいじめを予防するため、児童への情報モラル教育を行い、情報機器の使用に必要な節度と責任感を身に付けさせる。必要に応じて保護者に対する啓発を行い、情報機器の使用について家庭でのルール作りを進める。

(2) いじめの早期発見の取組

- ・ 教師と児童との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努め、いじめについて相談しやすい環境を整える。また、担任だけでなく、全教職員で見守り、児童の小さなサイ

ンを見逃さないことと、早期対応ができるように努める。

- ・ 年3回の「生活アンケート」とそれに伴う「コンタクト週間（教育相談）」を設け、児童一人一人の理解に努める。
- ・ 家庭との連携による実態把握。また学童保育や放課後こども教室、見守り隊など地域の方々からの情報も有効に役立てる。

(3) いじめに対する措置

- ・ いじめは許さないという態度を明確にし、問題の背景理解に努め、根本的な解決が得られるまで粘り強く指導する。
- ・ 担任や一部の教職員のみで対応するのではなく、「いじめ・不登校対策委員会」を中心に、組織的な対応、指導を行う。
- ・ 事実の確認、被害児童やその保護者に対する支援、加害児童やその保護者への指導、助言を行う。必要に応じ、スクールカウンセラーや児童相談所等、専門家の助力を得て対応にあたる。
- ・ 発生したいじめが犯罪行為と認められるときは所轄警察署との連携を図る。
- ・ いじめの起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを看過しない、生み出さないような集団づくりに努める。
- ・ 被害児童と加害児童の保護者間で争いが起こらないように、情報の共有がなされるように措置を講じる。

4 重大事態への対応

- ・ 重大事態とは、
 - (ア) 児童の心身や財産に重大な被害が生じた疑いのある場合
 - (イ) 相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いのある場合を指すものとする。

- ① 重大事態が発生した場合には、速やかに教育委員会に報告する。
- ② 教育委員会と協議の上、当該事実に対処する組織（当事者、教職員以外の第三者を含む）を設置する。
- ③ 上記組織を中心として、事実関係を明確にするための調査を実施するとともに、関係諸機関との連携を適切にとる。
- ④ 上記調査結果に対しては、いじめを受けた児童・保護者に対し、事実関係とその他必要な情報を適切に提供する。
→別紙フロー図参照

5 学校の取組に対する検証・見直し

- ① 学校いじめ基本方針をはじめとするいじめ防止の取組については、PDCAサイクルで改善を図り、実効性のある取組となるよう努める。
- ② いじめに関する項目を盛り込んだ教職員による取組評価及び保護者への学校評価アンケートを1月に実施し、いじめ・不登校対策委員会できじめに関する取組の検証を行う。

6 その他

- ① いじめに関する校内研修会を年2回計画し、児童生徒理解やいじめに関する教職員の資質向上に努める。
- ② 「学校いじめ防止基本方針」をホームページに掲載する。
- ③ 長期休業の事前・事後に指導を行い、休業中のいじめ防止に取り組む。

津島市立北小学校重大事態の対応フロー図

